

Ⅱ 水産海洋研究会昭和42年度秋季シンポジウム

釧路沖暖水塊の消長と漁況の関連

日時：昭和42年8月25日(金) 午前9:00～午後5:00

場所：東北区水産研究所会議室

コンピナー：辻田時美(水産庁)

北部太平洋混合水域の海況と生産力の関係(東京水産大学) 宇田道隆

釧路沖暖水塊一特に近年の実況(東北区水産研究所) 黒田隆哉

釧路沖暖水塊一特に親潮との関連(函館海洋气象台) 泰克己

釧路沖暖水塊を中心とするサバの回遊と漁況(東北区水産研究所)

佐藤祐二

釧路沖暖水塊を中心とする重要魚の回遊分布—スルメイカ—北海道東部太平洋

域におけるスルメイカの分布と回遊について(北海道区水産研究所)

新谷久男

総括と問題点(水産庁)

辻田時美

1 北部太平洋の混合水域の海況と生産力

宇田道隆(東京水産大学)

緒言 東北海区の研究の歴史は古く、明治26年和田雄治博士の親潮寒流の海流瓶による調査以前の商船、軍艦の表面水温、海流報告もあり、明治33年からの水温分布図が安藤広太郎博士の東北凶冷報告にあり、明治40年からの沿岸水温変化報告が遠藤吉三郎博士の報告にあり、大正、昭和に入つては海洋調査要報その他に多数出ている。(例えば宇田、木村喜之助、川合英夫、黒田隆哉、増沢讓太郎などの諸研究報告がある。)

- (1) 北太平洋の親潮水塊(亜寒帯系水S.A.)、黒潮水塊(亜熱帯系水S.T.)とその混合水域[※](極前線 Polar Frontal Zone)の水型と構造T. S. O_2 、 σ_t 、P、N、 S_i 、プランクトン等に濁度、生物生産とその集積。(温度曲線による解析等)。(省略する)
- (2) 極前線海洋学(Polar Frontal Oceanography)水温傾度 $\nabla\theta$. max. 流速、流向

※混合水域とは最大変動水帯たる前線帯である。